

(庭園検討部会からのお知らせ)

1. 5号棟の樹木整理について

7月に樹木台帳を配布しましたが、それに伴い5号棟の皆様からケヤキを残して欲しいとの要請がありました。11月の日照条件を調査の上、5号棟の皆様全所帯アンケートによるご意見を伺い、理事会にて決定することにしていました。

4頁に示すデータをお示しし、アンケートを実施しました。アンケート結果も参考に、ケヤキの全体の中での位置づけ、樹木移植の必要性などのコストも考慮に入れてヤブニッケイを残し、ケヤキを整理することに決定しましたのでお知らせします。ご協力ありがとうございました。

2. 高木の整理(伐採と剪定)について

4年前から、庭園の再整備について取り組んでまいりましたが、前月号と前々月号2月にわたってその取り組みの内容をお示した積りです。よくお読みいただけるとありがたいと思います。

中でも高木なканずくケヤキとサクラは存在感も大きく、整理する過程ではいろいろな軋轢もありましたし、表面にはださないにしても残念に思っておられる方も多いと思います。本来、今回5号棟の例で示しましたように1本1本丁寧な議論ができれば良いのかもしれませんが、550戸の大きな組合です。全体として方針を定め、標準的なルールに従って意思決定することになります。例外的な事例は個々に議論し、またその中から方針やルールが修正されることもあるのだらうと思います。

今月号では(1)高木剪定の基礎的な方法(2)高木剪定の改善(3)サクラのB2判定樹木を整理することにしましたが、その過程を詳述します。

油茶発見



2号棟南庭に大きな白い花を咲かせています。

樹木台帳はサザンカとなっていますが、サザンカ種の中で実に油茶が多く、食用油が採取されるので“油茶”と呼ばれるとのことです。中国の揚子江南地方で盛んに栽培され、健康志向の食用油として日本にも輸入されているとのことです。

5号棟の皆様と理事会に提示したデータ

1. 日照の調査

11月の観察結果はつぎのようなものでした。夏至（7月）を対称点として影は3月との間で往来するものと思われます。（12～3月は落葉があり影響は軽減されます）



午後1時頃には解消されています。このデータからすると1階段両方の1・2階の部屋が午前2時間程度日陰になる影響がでていることが推定されます。

2. ヤブニッケイとケヤキの比較（樹木の特徴）

特性	ヤブニッケイ（藪肉桂）	ケヤキ（樺）
樹高	約10～15m（やや小型）	20～30m以上（大型）
樹形	やや直立～円筒形、枝葉密	扇状に広がる優美な樹形
落葉性	常緑（冬も葉がある）	落葉（冬は枝のみ）
生育速さ	中程度	速い
根の張り方	比較的浅く広がる	地表近くに太い根を張る
景観 用途	目隠し・防風・香り	街路樹・シンボルツリー
管理難度	剪定しやすくコンパクト	大きくなり剪定に手間
剪定費用	8千円/回	4万2千円/回

ケヤキは成長が速く根が張りますので、樹形は奇麗ですが、生涯コスト（剪定・伐採・伐根）は大変高い木です。

樹木剪定の種類と適用

右に樹木に発生する枝を示します。
樹木は成長すると高くなるだけではなく枝がでて込み合ってきますが、それを整理するのが剪定作業です。

不要な枝（徒長枝・からみ枝・ひこばえ等）を切って樹形を整えますが一般的には“**軽剪定**”と、特に込み合った枝を整理して風通しや日照の改善を行うことを強調する時“**すかし剪定**”と呼びます。

サザンカ・ツバキなどの中木やツツジは一定の形（丸形や塔型）に整えています、それを“**刈り込み剪定**”といいます。刈り込みだけ続けると枝や根が込み合ってきますので、時に“**透かし剪定**”を組み合わせます。（この部分の強化が必要だと感じています）

高木ではサルスベリ、中低木ではヒメリンゴやアジサイなど花や実を楽しむ樹木は花芽や葉芽を生かした剪定をして翌年の開花あるいは実成に備えますが、それを“**切り戻し剪定**”と云います。

高木でもシラカシは最初から毎年丁寧に剪定して成長を抑えてきましたが、最初の段階から樹木の骨格を定めて丁寧に管理する方法は“**仕立て剪定**”などと呼ばれることがあります。

ここでは分かりやすく“**芯止め剪定**”と呼びましょう。生長点を切って横へ成長力を逃がして高さを制限する剪定方法です。

本来、小さいうちから手入れをして計画的に考えられれば良いのですが、相当時間が経ってやむを得ない理由で樹木の高さを制限する必要があるで、主要な幹から切るような事態になることがあります、それを“**強剪定**”と呼びます。

強剪定は切り口から菌が入り、また樹木に与える負荷が大きいため、樹勢の衰えを早くするとともに常に枯れるリスクを負うこととなり、できれば避けるべき方法だとされます。（下に強剪定したサクラとケヤキと芯止め剪定してきたシラカシの写真を示します）



高木の剪定について（GHの場合）

今回行った5号棟の調査で気づいたことがありますので、そこから始めます。

ケヤキの日照問題を気に掛けていましたが、1・2階の直接関係するご家庭の方もむしろケヤキを残すことを望んでいることが解りました。2時間程度の影響はさほど大きな問題にはならないわけです。ただ、これが2本3本と重なると、2本で4時間、3本で6時間になりますから、本数が増えると急激に生活への負担が大きくなります。

もうひとつは日照障害が木の高さには関係がないことです。仮に木が20m程度の大きさになってとしたら影響は3階ないしは4階の一部にひろがりますが、それは1階・2階の方が現に受容できている範囲は超えないからです。

すなわち、日照問題は木の高さよりも木の重なり（本数）と葉の茂り具合によると云えるのです。

平成14年から高木は4年ごと（平成18年から3年ごとに修正）に剪定して高さを4階程度（約11m程度）に押さえることとしました。以降、高木は強剪定することを当然こととして受け入れてきました。ケヤキもサクラも3年に1回はほぼ丸裸になりましたが、それを続けて今日に至っています。

ちょっと、30年誌から日照調査のデータを拾ってみましょう。平成7年の10月に調べた3号棟の例ですが、1階と2回はほぼ一日中日陰になっていますが、4階と5階は全く影響がでていないことが分かります。

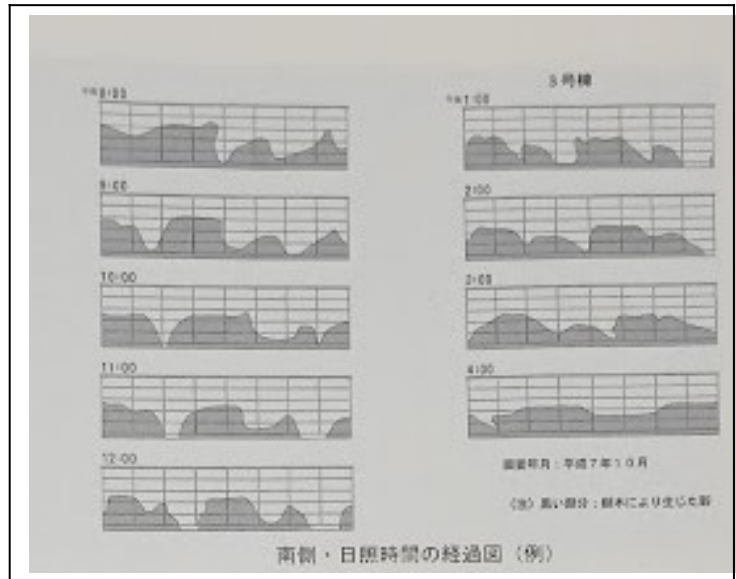
ちなみに、高木としてはケヤキ・サクラ・ソロ・エゴノキが主力でしたが、創建時植えられたとして築20年次ですから、ケヤキは20～25m、サクラは10～15m、ソロとエゴノキは5～7m、程度の樹高であったと推定されます。

ヤブニッケイの場合を考えると、樹高は自然に任せても15m程度（現況は6m程度）と云いますから、その高さまで許容すれば強剪定は必要がないことになります。枝と葉の密度が高い木ですから、むしろ、軽剪定で大事にすればケヤキよりも見栄えが良い樹木になるのかもしれない。

ヤブニッケイは1本しかない木です

が、GHの主力樹ソロとエゴノキはどうでしょうか。両方の木は武蔵野の雑木林を代表する樹木として合せて300本以上あったようですが、この時主たる伐採対象として整理されました。（現在ではソロ46本、エゴノキ11本が残っています）

ソロは駐車場横や北側にも多くあり、木の葉や実を嫌う人もいて現在でもあまり評価は高くないようですが、よく見ると立派な樹形をした木もあります。新緑と落葉が楽しめ



る正に武蔵野

を代表する樹木ですが、少し粗末にしすぎたのかもしれませんが。樹高は10m程度、成長スピードは遅く若木の時でも、年に20cm程度と云いますから、50年の年月を経てようやく成木に至った木であることになります。自然樹形が似合いほぼ剪定が要らない木と云いますから、ケヤキの影響で整理され、残りも強剪定されてきたことはソロにとって不本意なことであったかもしれません。

もうひとつの事例としてシラカシを取り上げてみましょう。

シラカシは第一次庭園整備の時武蔵野の常緑樹として選ばれたようですが、成長は速くケヤキほどではないにしても60～80cm場合によっては1mを越えると云います。それからすれば、すでに25年経っていますから15m～20m程度までなっているもおかしくない樹木です。この木は最初から毎年剪定し成長を抑えてきたために、10m程度で安定した樹形を維持しています。

今回、庭木として維持して欲しいとご要請があったナツメやハナモモ・ザクロなども高木に分類されますが、北側に配置する樹木として手入れをすれば3m程度に維持することはできそうです（まだ間に合いそうです）。

モミジは全棟で11本あります。サラサドウダン1本を含めて紅葉を楽しめる木になっていますが、私的に植えられてきた樹木であるので、剪定の対象外の樹木としています。北側内庭（駐輪場後ろ）にある木は大きくなって切らざるを得ない木もあります。葉が茂る傾向にありますから、庭木の場合には透かし剪定が必要ともされています。1本1本評価して今後どう扱うかを決める必要があります。

場所や目的を明確にして若木の時に骨格をつくる手入れをすれば、成木になっても安定した維持管理ができることも考えておかなければなりません。樹木高さの11mの制約を緩和して、“軽剪定”に“仕立て剪定”を加味して総ての樹木を管理組合の管理下に置くことが必要です。（樹木の高さは剪定作業のコストにも影響しますから、その観点から一定の高さに制限することは必要です）

来季の予算編成の中で改めて樹木管理の問題を検討します。

- (1) 樹木高さの制限を11m程度から緩和した場合に減少する強剪定の対象と今後の剪定方法（剪定コストの観点から高さを制限する必要があるが）
- (2) 軽剪定に移行した樹木の剪定内容（樹種別）
- (3) 従来剪定外としていた樹木の剪定対象化の検討
- (4) 新植樹を含めて、若木期にある樹種の今後の剪定計画（樹種別）



サクラ特にソメイヨシノの扱いについて (B2判定樹木伐採に至る経緯)

グリーンヒルのサクラは当初から植えられていたものかどうか定かではありませんが、植えている場所を考えると後から住民の皆さまが植えたものも相当あるのではないかと思います。樹木台帳が作られた平成10年には82本ありました。今回樹木診断の対象となった樹木は45本でした。サクラはこの時の樹木整理ではあまり切られていないとすると、37本は老木化ないしは倒木事故によってこの20年の間に減った本数になります（管理外で最近植えられていた3本は除く）。

45本の内27本は危険ゾーン（B2およびC判定）にある樹木でしたからこれを整理することが必要になりました。2つの階段から皆さんの署名付きで整理を開花時期まで待つて欲しいとの要望がありましたので、観察しながらB2判定樹木は残すことにしました。サクラの開花期を楽しみたいとの趣旨も考えてサクラについては3年に1回の強剪定をやめて毎年必要最低限の剪定に変える試みも取り入れました。

その間、ソメイヨシノの保存活動事例や、倒木事故による死亡例および国土交通省から倒木や落枝事故に警鐘をならす調査結果がでたとの報道にも接しました。

ちょうど1年前になりますが、12号棟の皆様から署名付きで12号棟前にあるサクラ2本（いずれもB2判定）を伐採して欲しいとの要請がありました。理由は落枝の事故を心配するだけではなく、北側の日照や落葉のベランダ・階段への吹込みもあがっていました。（私達も公聴会を通して北側の高木については整理した方が良いとの認識を持っていますが、先月号でお話したクスノキやサクラ・イチョウなどを考えると方針にまですることはできないでいます）

景観的には美しいサクラが2本並んでいて、11号棟の皆様や通る方にも関係することですから、その旨を広報誌でお伝えし開花時期をもう1回待つことにしました。

他の樹種は整理しましたが、サクラのみB2判定樹木の保存を3年続けました。倒木のリスクを考えるとずるずると続けるわけにもいかず、12号棟の案件の反応も確認したうえで、（公聴会で整理をお約束した他の樹木に加えて）7月の理事会に伐採を提案し、決定頂いた訳です。

B2判定樹木の中に15号棟㊸のサクラがあります。15号棟と14号棟の間の通りにはサクラが4本とモクレンが1本あり3月から4月にかけて花並木を形成していますが、その中にあるサクラです。惜しむ声も頂いていたので、予算10万円を用意し、保存方法を検討していましたので、そこだけは保留を続けることことにしました。

その後、結論を得ましたが、保存工事を行う価値はないだろうと考えています。

上記の過程で学んだこと、および15号棟㊸のサクラも整理すべきとの結論に至った理由を次のページで詳述します。

1. ソメイヨシノの性格

ソメイヨシノは江戸時代に生まれた“華やかだが病虫害に弱く繊細な性格”を持つサクラです。寿命が短く、特に強剪定には弱く、“サクラ切るバカ”と言われます。

サクラは一般に若木の時は伸びる速さが速く、古くなると成長は鈍化します。ソメイヨシノは大型で成長が速く、成木になると枝張りが大きくなると言われます（樹高は10m～15m）。樹高が許容出来て枝の広がりや邪魔にならない場所に植えて、剪定してはいけない樹木でもあるのです。

これをGHに当てはめると10号棟11号棟の西以外にはないことになります。（サクラは樹高からだけ見るとケヤキほどの高さはありませんが、8号棟のように庭幅の狭いところにある木は影響がありそうです。また、大きく広がるため枝のベランダへの侵入（虫害）や電線・建物への接触など場所的に負担が大きいところに植えられていましたから、強剪定してきたことはやむを得なかったと考えています）

平成14年に高木の剪定を制度化しましたが、樹高を4階程度（約11m程度）に抑えて樹種や場所に関わらず3年に1回強剪定することにしました。ソメイヨシノの寿命は60年～80年とされますが、創建50年のグリーンヒルで現に倒木が発生し寿命が尽きつつあるのは、ソメイヨシノには適していない場所に植えて、無理に強剪定で維持してきたことにあるのです。

残りの樹木（AはなくB1判定です）も相当な無理を重ねてきており、そう長くはもたないのではないかと考えられます。

2. 今後のソメイヨシノの扱い（この4年間学んだ3つのこと）

(1) B1判定とB2判定の差

2号棟北側と15号棟北側に立派な樹形をした木が2本（B1とB2）並んでいますが、秋になって観察すると、葉や枝が枯れる時期に明らかな差がありました。樹木診断は簡易的な方法でしたが、それなりに有意差がはっきりしています。

(2) 剪定方法について

2年間、観察しながら、最低限の剪定に変えてみましたが、剪定が要らないような場所にあるサクラはないことを確認しました。成長は緩やかになっていますから、来年度から毎年徒長枝と枯れ枝の剪定（軽剪定）に変えたいと考えます。

(3) 延命策について

15号棟⑫のサクラを例に延命策を検討しました。一般的な施肥程度では効果はなく、根の周りを掘り空気が入るような構造に変えて施肥を施す“樹勢回復工事”があり、枝を落として軽量化する方法が取れるとのことでした。（費用20万円程度～）

今まで申し上げたよう事情からはソメイヨシノに執着して投資する意味は無いと考えますので、無理に保存はしないと考えますがいかがでしょうか。

（新しく植樹する費用は1万円～2万円/程度です）

（次頁に主な高木とサクラの樹種別の特質を示します。ソメイヨシノとケヤキにこだわらなければ強剪定に依存しないで樹木管理ができるようになることを示します）

主な高木類の種類と性格（新植樹含まず）

樹種	本数	場所	樹木の特性		備考
			成木樹高	成長速度	
エゴノキ	11	全棟	5～10	20～40	細枝が多く自然樹形
ソロ	46	全棟	5～10	20～40	武蔵野の雑木の代表
イチヨウ	1	7	20～30	30～40	寿命は長く剪定にも耐える
クスノキ	2	6・10	20～40	40～60	常緑高木、成木期は肥大
ケヤキ	28	全棟	20～30	80～120	超高木で成長も早い
コナラ	1	7	10～20	50～100	武蔵野雑木の代表、成長は速い
シラカシ	36	全棟	10～20	40～80	常緑樹で成木後も成長が速い
ソメイヨシノ	11	全棟	10～15	60～90	成長が速く成木後は枝張りが大
サルスベリ	13	全棟	5～10	30～60	樹皮が美しく夏期に長く花が咲く
ハクモクレン	9	全棟	5～10	30～60	成長が速いが成木後は落ちつく
ハナミズキ	3	7・11	5～10	15～30	樹形が乱れにくく管理が容易
マユミ	2	16・17	3～7	20～40	細い枝と実が特徴
モミジ	14	全棟	5～10	30～50	青葉と紅葉、枝葉は密
			m程度	cm/年	

桜の種類と性格

	樹種	本数	場所	樹木の特性		備考
				成木樹高	成長速度	
古木	ソメイ	11	全棟	10～15	60～90	B2が2本が含まれる。
	ヤマ	4	15	15～30	60～90	B2が1本含まれる。寿命は長い。
	ヤエ	4	管理棟	5～10	40～60	管理棟のサクラ
若木	サト	3	9・10	5～10	40～60	まだ小木
	オオシマ	1	7	10～15	40～60	ソメイの母種、丈夫。
植樹	ウコン	1	2	10程度	30～50	サトザクラ系、黄緑の花。
	カンヒ	2	3・5	5～7	30～50	早春に開花、濃紅色の花。
	ジンダイ	2	4・7	4～8	30～50	ソメイの後継樹、丈夫。
	カワズ	2	2・6	7～10	40～60	早咲きで期間が長い。
	シダレ	2	3・6	5～15	40～60	枝が垂れる姿に特徴。
	フユ	2	4・5	3～7	20～40	秋と春に開花。
	マメ	1	6	3～7	40～60	小型樹、富士山周辺に自生。
				m程度	cm/年	